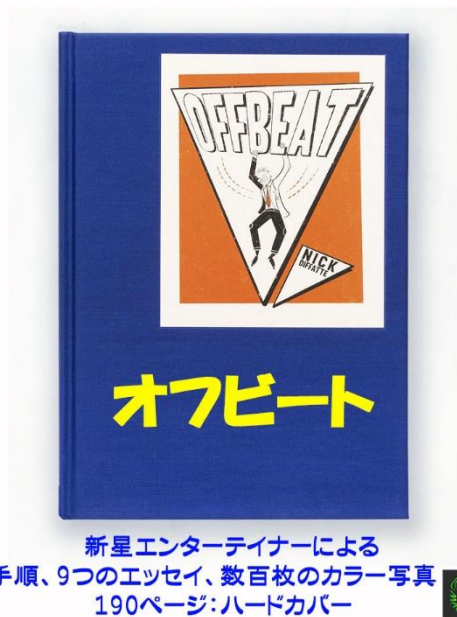




オフビート

OFFBEAT

BY NICK DIFFATTE

（はじめに一要約）

なんで 26 歳の私が本など書いたのでしょうか？自分を何様だと思っているのでしょうか？その理由は実は、私が昨年大きな3つのことに思い至ったからです。

まず第1は、以下の頁にある私のマジックの記録を取っておきたいと思ったことです。

第2は、他の演技者の手間暇を少しでも減らしたいと思ったことです。私が学んだこと、そしてここに書いたことが誰か1人にでも役立つならば、この本を一生懸命作った価値があります。わざわざ同じことを一から考える必要がありません。

第3に、マジックを解説したDVDは、それがどんなに良いものでもその寿命は短いです。今時点でポピュラーなものでも、数か月後にはわき役となっています。また、テクノロジーの進化によっても、消えてしまうものが現れます。一方で本棚に長くとどまる書かれたものは、マジック界に長期間の恩恵をもたらします。私は、これらの作品をデジタル化するのは気が進まなかったのです。

この本にあるものは、一部は既にどこかで発表し、一部はまったく未発表のものです。そして、それらは理論上のものではなく、私がこの15年間にステージで実際に何回となく演じて来たものばかりです。またいくつかはこの本を書くまで人には教えずにガードしていたものです。

なぜなら、私は自分のオリジナル作品を考案して、演じることに誇りを持っているからです。たいていはスタンダードなエフェクトやセリフからマジックの世界に入っていきますが、私はそうではありませんでした。まったく私独自のものを発見するのが楽しかったのです。

もし自分の本を作る時には、私は、私の美的感覚を満足させてくれる写真や絵を使いたいと思っていました。それが、私のお気に入りのアーティストである VERNON JAMES を選んだ理由でした。彼とはこれまでもポスターや他のプロジェクトで一緒に仕事をしてきましたが、この本のために私の求めたスタイルの絵を提供してくれることに疑いをもちませんでした。結果は御覧の通りです。

また、写真は私の友人の BERT LOUDERMILK が撮ってくれました。結局 200 枚近い写真をデジタルカメラではなく、普通のフィルムで撮るという馬鹿げた作業を行いました。出来上がった写真は本当に素敵なものです（ただ、その作業は本当に大変で、なぜ他の人が同じようなことをしないのかが、よく分かりました・・・）。

我々は皆、あの「STARS OF MAGIC」の写真に影響を受けて成長してきました。そこにある写真は 1 枚 1 枚が存在感を持っていました。（訳注：「STARS OF MAGIC」は、その名の通り、VERNON や SLYDINI など当時の名人を一堂に集めた解説書でしたが、贅沢な大判のアート紙に手順ごとの大きな写真が掲載されており、訳者も昔、本当に名人たちに教わっているような感動を覚えたものです。著者の NICK もそのことを言っているのではないのでしょうか？）。

私の本にも良い写真を望んでいたのですが、面白いことに、私達の写真を現像に出した店のスタッフが、「これらが何の写真かは知らないけれど、どれもすごくクールだね」と言ったのです。これこそ私が求めていた、写真の第一印象についての最高の感想でした。

以下におさめられている 16 の作品は、実際に観客の前で何度も演じられ試されてきたものです。中には、（冗談ではなく）私が 13 歳の時から演じて来ているものさえあります。あるものはしばらく変わっていませんが、多くのものは内容を見直されています。そして、今も私は見直しを続けています。作品を作り、発展させ、常に見直す、それが私のやり方です。この本の中でも、作品によっては変化について指摘し、なぜそうなったかについても語れたら良いなと思っています。

なお、この本ではマジックやコメディ、コメディライティングなどについても私の見解を述べています。ただし、それらはあくまで私の個人的な意見であり、違う意見の方もいるでしょう。それでまったく OK です。私の言葉を「聖書」のように受け取らないでください。マジックとその演技は本来クリエイティブなものであって、人によって進む道は様々です。もし、私のエッセイなどの中で大胆な意見があったら、それは実際に何百時間をステージ上で過ごしてきた私の経験から出た本音であると思ってください。もし、あなたが違うと思ったら、違う行動をしてください。私もそうしてきたのですから。

NICK DIFFATTE

PLAY MONEY

この簡単なビルチェンジは私のお気に入りであり、マジックコンヴェンションなどでも話題になって、朝の 4 時頃までホテルのロビーで私が演じているような類のトリックです。

これはまた、私が初めて考案したものであり、はじめはこんなアイデアで人が見てくれるかと心配しましたが、人々の反応はびっくりするような大きなものでした（少なくとも、当時 10 代であった私にはそう感じられました）。はじめは「MALL OF AMERICA」のテーブルホップとそこにあるマジックショッ

プで演じるものとして考えたトリックでした。これには少し紙幣を切ったり折ったりと工作が要りますが、その結果はその努力に値する、ヴィジュアルでクイックな紙幣の変化現象となります。

（現象）

おもちゃの紙幣が、片手で持たれた指先で本物の紙幣に変化します。

（必要なもの）

2枚の同種類の紙幣、1枚のおもちゃの紙幣（出来れば、「MONOPOLY」ゲームの紙幣の大きさのもの）、あるいは同じような大きさの紙（後記（最後に）参照）。先端の鋭いナイフ、ラバーセメントなどの接着材、工作をするための表面も必要です。

（準備）

—以下省略—

（セット）

—以下省略—

（やり方）

「内緒ですが、私は最近紙幣の偽造に関わってきたのです。見てください」と言って、財布からおもちゃの紙幣を取り出しますが、

—以下省略—

（補足のアイデア）

あなたが演技後にスイッチなしで紙幣を客に見せたければ、以下のようにします。

—以下省略—

（最後に）

私はこの基本的なチェンジのやり方を、チケットや小さな広告紙、スーパーマーケットのクーポンあるいは自分でお粗末に描いた紙幣などに応用しています。「MONOPOLY GAME」に使うおもちゃの紙幣の大きさくらいのものであれば、何でも使えます。外国の紙幣も試してみましたが、紙製である限りはどれも何とかなります。「MONOPOLY」紙幣の大きさでない場合は、家のプリンターでサイズ調整をしても良いでしょう。紙幣の方は、マネーショップで外国の紙幣等、適当な大きさの本物の紙幣が手に入ります。

SCHOOL OF HARD KNOTS

これはとても実用的でディセプティブ（騙される）なロープ・ルーティンです。最小限の準備でギミックも使わず、どんなサイズの客数にも対応できるものです。私が考えた最初の3つのスタンドアップルーティンの1つであり、10年近くにわたって私のアクトのキーパートであり、今日までやり方は隠してきたものです。

私のハンドリングの核になる部分は、私がはじめて見た時に完全に騙された ALDO COLOMBINI のロープルーティン「PROFESSOR'S MATH」に基づいています。ALDO の手順を覚えた後に、私は友人の TYLER ERICKSON と一緒にその手順の見直しを始めました、我々がやったのは、原案のいくつかのちょっとした問題を解決したことであり、それによってあなたにロープとハサミを手にとって時間を取ってもらえるものになったのです。あなたは私の手順をフルに使わないかもしれませんが、少なくともロープの手順に足を突っ込むきっかけにはなると思います。

（現象）

あなたはロープに結び目を作りますが、その結び目はロープから取れてしまいます。しかし、どうもそれだけでは観客があまり感銘を受けていないようだと行って、もっと見せると言います。しかし、その過程であなたは間違えてロープを長さの違う3本に切ってしまう。あなたは困ってボディビルダーのような怪力で3本のロープを引っ張って、同じ長さに伸ばしてしまいます。そして、その3本のロープを結び合わせます。すると、ロープの結び目がロープの上を動きまわり、最後にはロープから抜けてしまいます。そして最後にはロープが長い1本になって終わるのです。

（必要なもの）

まずは長めのロープが必要ですが、私は中に芯の入ったマジシャン用のロープを使っています。結び目を作った時に、どれも同じ形にそろって見えるからです。長さは自分の身長1.3倍くらいが適当ですが、あるいは両手間に伸ばして、更にその3分の1位を取っても良いです。一般的に言えば、2〜2.4メートルくらいが良いと思います。

また「余分な」結び目が必要です。これは短いロープをスクエアノット（本結び）で結び、両端をノットの根元から切り取ったものです。

最後に良く切れるハサミが必要です。良く切れないハサミは、他のロープルーティンと同様にこのルーティンにとっても致命傷となります。私は医療用のハサミや、ドレスメーカーのハサミ、あるいは時々マジックショップで売っている専用のハサミを使います。私は高級品志向ではありませんが、演技に必要なものは自分にとって一番使いやすいものを確保しましょう。

何千回となくこのルーティンを演じて来て分かったことがあります。それは「ハサミの先端は丸くしておけ」と言うことです。先端の鋭いハサミをズボンの後ろのポケットに入れようものなら、見事に穴が開きます。私は一度、ハサミをズボンの後ろポケットに入れておいたのを演技の途中で忘れ、舞台から飛び降りたときにズボンに大きな穴を開けてしまい、自分の「もも」には小さい穴を開けてしまったことがあります。それから私は、ハサミの刃先はグラインダーで出来るだけ丸くし、サンドペーパーで磨くようにしているのです。

ハサミの刃先を鈍くしておく代わりに、革で刃先がおさまるようなサックを作って、ポケットの中にテープで留めておくという方法もあります。私は自分の加工したハサミを持って行けない時は、必ず革サックを装着して出かけます。

最後に、もし良いハサミが見つかったら、ロープ専用とすることです。他の物、特に紙を切らないようにしてください。もし私の言葉が信じられない人は、おばあさんの布ハサミで紙を切ってみてください。あなたのお尻が（おばあさんにぶたれて）腫れ上がることでしょう。

（準備）

長いロープを左手に、25～20センチの長さに折りたたみながらまとめて行きます。そして、30センチくらい残ったら、左手に束ねたロープの中央に数回巻き付けて、最後の部分をその巻いたロープの下にはさみ込んでおきます（15頁の1図のような状態です）。最後にはさんだ端を持って引っ張れば、ロープはスルスルとほどけて来ます。

（セット）

—以下省略—

（やり方）

—以下省略—

（最後に）

私は15歳の頃に、MIDWESTのコンベンションでこの手順を演じたことがあります。私はこのトリックを、最後にロープを客席に投げ入れて終えたのですが、ショーの後で中折れ帽をかぶった紳士がやって来て、「どやって最後にロープを、それもマグネットの付いたロープを客席に投げ込めたのかね。不思議だ」と言われたことがありました。

私は本当にベテランのマジシャンを、私のささやかなロープマジックでだませたのだろうか？それが率直な疑問でした。そこで、私は座り直して私がやった手順を説明したのですが、そのやり取りは結局その週末いっぱいまで及ぶことになったのです。それ以来、そのマジシャンは私の親友となり、それが私がLAS VEGASに引っ越す理由にもなったのです（彼の住んでいる所です）。

以上、どんな安ホテルでも、どんなつまらないロープトリックでも、欲徳なしに楽しい演技を見せれば、どんな素晴らしい人に巡り合えるか分からない、という教訓でした。

—以下省略—